

UNIRITA

Magazine

vol. 62



特集

DX推進に向け、 2022年度にやるべき6つのこと

UNIRITAユーザ会

第38回UNIRITAユーザシンポジウム
オンラインで開催します!

システム管理者の会

新しい推進委員の紹介と
認定講座2022年度日程のお知らせ

人材育成プログラム

ユニリタグループのDX人材育成セミナー

ユニリタ今昔物語

ユニリタの歴史 Part4
データウェアハウスの本格的台頭

DX推進に向け、 2022年度にやるべき6つのこと



大手IT調査会社がこぞって、2022年に大きな発展が見込まれそうな最新のITトレンド予測を発表しています。そこで今号では、各社が発表したITトレンドとユニリタが日ごろからITコンシェルジュ活動を通じヒアリングしているお客様の生の声から導き出した、「2022年度にやるべき6つのこと」を紹介します。

まず、各IT調査会社が発表したITのキーワードやユニリタのお客様の投資動向などを見ると、大きく2つのトレンドが見えてきます。1つは「DXのさらなる推進」です。昨今の新型コロナウイルスの影響で、私たちの生活環境は大きく変化しました。企業にとっても労働環境の変化や、次々と表面化する問題や課題に素早く対応するために、ITやデジタルを活用することが必要不可欠となっています。一方でそのDXを最適に推進し、事業や業務プロセスを変革することができたという企業はまだ多くはないのが実情ではないでしょうか。2022年度はこれまで各企業で行ってきたDX化へ取り組みをさらに加速させ、企業ごとに最適化されたDXの活用が進むと考えています。

もう1つは基幹システムをはじめとする「システム環境のクラウド移行」です。リモートワークをはじめとし、私たちの労働環境も大きく変化しました。場所や時間を選ばない新しい働き方を実現するために、システム環境をオンプレミスからクラウドに移行することはごく自然な流れでした。そして、その実績からこれまでのクラウド利用に対する不安が軽減され、今後はさらにシステム環境のクラウド移行が進み、今後5年で企業の80%は基幹システムをクラウド環境へ移行すると算出しているソフトウェアベンダーもいます。

「DXのさらなる推進」と「システム環境のクラウド移行」という2つの大きな流れから、ユニリタでは以下の6つのことを2022年度に早急に取り組むべきこととしてあげています。

2022年度にやるべき6つのこと

1

リモートワークに対応し、働く場所にとらわれずに社員のコミュニケーションやコラボレーションが図れる環境の構築

デジタルワークプレイス

2

顧客接点をデジタル化し顧客ごとの関係性をデータ化することでカスタマーサクセスを実行し、利用者の解約を防止

テックタッチ・顧客ヘルススコア

3

経験と勘に頼らない、迅速かつ的確な意思決定を実現する全社横断のデータ活用基盤の構築

データファブリック

4

社内で乱立しているさまざまなクラウドサービスの実情を把握し、適正なクラウド活用を実施

クラウド管理

5

クラウドシフトが進む中、さまざまなクラウドサービスを快適、かつ安全にアクセスするための基盤の構築

IDaaS

6

2022年1月に施行された改正電子帳簿保存法に対応し、リモートワーク環境に合わせた業務効率の向上とさらなるデジタル化を推進

改正電子帳簿保存法への対応

それぞれの内容について次ページより詳細な説明を紹介します。

NEXT PAGE





1 デジタルワークプレイス

新型コロナウイルスへの対応が続く中、デジタルワークプレイスへの対応に注目が集まっています。

デジタルワークプレイスとは、働く場所や使うデバイスにかかわらず会社にいるのと同じように仕事ができる環境を、デジタル技術によって実現するプラットフォームのことです。

デジタルワークプレイスには、業務に必要なさまざまなツールやアプリケーション、データ、情報などがまとめられており、社員は自宅にいてもカフェにいても、オフィスにいるのと同じレベルで仕事を進めることができます。

また、デジタルワークプレイスは通常、社内SNSなどのソーシャル機能を有しており、従業員間の透明なコミュニケーションが促されます。

さらに、アプリケーション、データなどを一元的に管理することでセキュリティも強化されます。

デジタルワークプレイスを導入することで、リモートワークが抱えるさまざまな課題を解決しながら、業務効率化や生産性向上を図ることが期待されます。

課題

- ・メンバーの仕事の進捗が見えにくい
- ・コミュニケーション不足による孤独感からストレスを感じる

解決策

コミュニケーションインフラの共通化による情報の一元管理

ユニリタが提供するソリューション



2 テックタッチ／顧客ヘルススコア

人の消費傾向が「モノ」から「コト」へ変化し、所有では得られない体験や経験により、価値を計ることが多くなっています。このような背景の中、現在ではサブスクリプションモデルのビジネスが台頭しており、顧客への「コト」を提供するために、契約後のフォローを担う「カスタマーサクセス」の取り組みが欠かせません。このような状況の中、顧客フォローの効率化を目的とした「テックタッチ」と「顧客ヘルススコア」に注目が集まっています。「テックタッチ」とは、既存顧客を対象にテクノロジーを活用して効率よくアプローチを行う

ことを指し、メールやチャットボットなどのテクノロジーを活用することで人為的なリソースを極力使わず、顧客との接点を持つことです。「顧客ヘルススコア」とは、サービスの活用状況やNPSなどをスコアリングすることで、解約予兆やアップセル機会を検知するために用いられる指標です。利用状況や満足度などから、解約リスクなどを算出・分析し、顧客ごとの状況を正確に把握することで、顧客に合わせた適切なフォローを行い、解約防止やクロスセル／アップセルを提案することでLTV向上につながります。

課題

- ・デジタルサービスの商材に適したフォローを実現したい
- ・サービスの解約率を改善し、売り上げを最大化したい

解決策

顧客の状況を正確に把握・管理することで適切なコミュニケーションを実施

ユニリタが提供するソリューション



3 データファブリック

DXの推進により、企業が蓄積するデータの量と種類は日々増加しています。そしてDXのさらなる推進には、増加し続けるさまざまなデータを素早く収集し加工分析し、データから価値ある情報を引き出し、ビジネスに活用することが求められています。「データファブリック」とは、さまざまな場所（オンプレミス、クラウド）や種類（マスターデータ、トランザクションデータ、メタデータなど）、データソース（データベースやアプリケーションなど）から、素早くデータ

を取り出し、必要な形に加工し保持、管理することができるインフラのことです。完全な形の「データファブリック」では、AIを用いた学習機能などにより、データの活用効率を自動的に改善し、データにかかわる業務効率の向上を目指すものです。しかし、現状ではEAIやETLなどのさまざまなデータ形式に幅広く対応したツールの活用や、特定のデータ活用に特化したサービスなどを組み合わせることで、「データファブリック」を実現することが現実解となっています。

課題

DXの推進による増えていくデータの量と種類に対応するためのデータ統合インフラが必要

解決策

EAIやETLなど、さまざまなデータに対応可能なデータ加工ツールを導入

ユニリタが提供するソリューション



クラウド管理

企業のクラウドへの移行が待たなしで進んでいます。今後もさらに複雑なマルチクラウド環境になることが予想されています。クラウドサービスの活用が進み、使用するサービスやインフラの種類が増えるとクラウド活用の実態把握に課題が生まれると考えます。本当に自社が期待するクラウド活用ができているのか。適正コストと品質の評価は大きな課題です。ユニリタは、「クラウド管理」をクラウド時代のお客様が取り組むべき新しい運用として提言します。

クラウド管理は、これまでのオンプレミス時代の運用管理と視点

課題

- ・企業に導入されるクラウドサービスが増加することで、新しい運用・維持管理が設計できず、クラウド活用が正しく行われているか判断できない
- ・クラウドベンダー各社がマネージドサービスを提供しているが、縦割り状態になり、複数のベンダー全体をまとめるサポートがない

解決策

クラウドリフト後の新たな運用の標準化と、適切なアウトソーシングによる本業への工数確保

ユニリタが提供するソリューション

ユニリタクラウドサービス

LMIS

SRクラウドパッケージ UNIRITA SR

IDaaS

リモートワークに対応するうえで、時間・場所を問わずに利用できる「クラウドサービス」は欠かせないツールとなりました。しかし、増え続けるシステムの数に比例し、IDの管理工数の増加やパスワードの使い回しなどによるセキュリティリスクが増加しています。企業のIT部門にとって、クラウドシフトを支える運用自動化とセキュリティ対策は必須項目となってきています。このような背景の中、IDやパスワード管理、認証を提供するサービスが「IDaaS (Identity as a Service)」です。IDを管理し、各システムに対して自動でアカウントの

作成や削除を行い(IDプロビジョニング)、そのログを管理することでセキュリティの向上や業務負担の軽減、管理コストの削減など大きなメリットがあります。また、多要素認証・シングルサインオン機能により、便利かつセキュアにサービスにアクセスすることが可能となります。企業の社内システムのクラウド化が進み、システムやサービスの数は増え続けている中で、それらのシステムやサービスのアカウント管理を一元的に行うIDaaSはこれからの企業に必要なサービスです。

課題

- ・アクセス権限の付与誤りや、退職時のアカウント削除漏れによる不正利用・不正侵入の脆弱性があり、これらのリスクを軽減したい
- ・社員の異動や役職変更などによる、各サービスへのアクセス権の変更作業の負担を軽減したい
- ・クラウド、オンプレミスを問わずに認証・ID管理を統一しセキュリティを高めたい

解決策

- ・IDの一元管理による管理作業工数の削減
- ・IDの監査ログを取得し、IT内部統制を強化
- ・多要素認証・シングルサインオンで、セキュリティの強化と利便性を向上

ユニリタが提供するソリューション

InfoScoop Digital Workforce

改正電子帳簿保存法への対応

2022年1月に改正電子帳簿保存法が施行されました。これまで厳しい要件が足かせとなっていた電子保存が、要件の緩和により電子化によるペーパーレスが大きく広がりを見せると予想されます。ペーパーレスの主なメリットとしては以下があげられます。

- ① 印刷・郵送、紙帳票の保管コストの削減
- ② 現場担当者の負担軽減
- ③ 検索性の向上などによる業務効率化
- ④ 紙データの紛失による情報漏洩リスクの低減

特に企業間の商取引で利用される請求書は、企業で印刷される

帳票の約4割といわれ、ペーパーレス化することがDX推進にも大きく貢献します。また、2年間の宥恕(ゆうじょ)措置となりましたが、電子取引の保存義務化に対して早めの対策も必要です。さらに2023年10月にはインボイス制度も施行され、電子インボイスが促進されていくと予想されます。このように法改正という政府の後押しもあり、いまやペーパーレス化はすべての企業が行わなければならない課題となっています。

なかなか進まないバックオフィス部門のリモートワークを推進するためにも早急な対策が必要です。

課題

- ・電子取引に関する法改正やインボイス制度に対してどのように進めればいいのかかわからない
- ・ペーパーレスや業務効率化などの事業課題への対応

解決策

帳票の電子化・アウトソーシングだけでなく、法改正に対応できる電子保存を含めた帳票課題を包括したサービスへの移行

ユニリタが提供するソリューション

帳票 CLOUD SERVICE

第38回UNIRITAユーザシンポジウム オンラインで開催します!

第38回UNIRITAユーザシンポジウムは昨年度に引き続き、オンラインで開催します。今年度は22グループが各研究テーマについて1年間研究してきた成果を発表します。オンライン中心の研究活動で工夫しながら研究を進めてきました。その成果にご期待ください。また、ユーザ事例として、スガキコシステム様、山櫻様に発表を行っていただきます。

車椅子バスケットボール男子日本代表ヘッドコーチの京谷 和幸氏による講演会もあります。

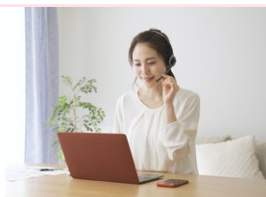
皆さまのご参加を待ちしております。

開催概要

日時: 2022年3月4日(金) 9:30 ~ 17:30

開催方法: オンライン(事前登録制)

参加費: 無料



詳細情報およびお申し込みは、特設サイトをご覧ください
<https://symposium.uniritauser.jp/>

時間	内容
9:30-9:50	全体会
9:50-10:30	4グループによる研究発表
10:40-11:20	4グループによる研究発表
11:30-12:00	事例発表 (2社)
12:00-13:00	講演会 京谷 和幸氏 (車椅子バスケットボール男子日本代表ヘッドコーチ) 「パラリンピック銀メダルへの道のり ～京谷式リーダーシップ論～」
13:00-13:40	4グループによる研究発表
13:50-14:30	4グループによる研究発表
14:45-15:25	3グループによる研究発表
15:35-16:15	3グループによる研究発表
16:15-17:00	休憩
17:00-17:30	表彰式・退任式

お知らせ

2022年度の研究グループのメンバー募集もユーザシンポジウムより開始します。各研究部会は、例年通りのグループ数での募集を予定しています。コロナ禍でもできる他社との交流、業務とは異なる面での人材育成等さまざまなメリットがあります。奮ってのご参加をお待ちしています。

詳細はUNIRITAユーザ会のwebサイトをご覧ください。

<https://www.uniritauser.jp/>

システム 管理者の会

新しい推進委員の紹介と 認定講座2022年度日程のお知らせ



システム管理者の会は、2009年の発足以来「ITシステム運用を支える全ての人を応援する」ことをスローガンに、さまざまな活動を通じて、システム管理の職に就かれている方が生き生きと働き、急速に進むデジタル変革時代に応える幅広い知識や技術力を修得できる環境の創造を支援しております。

この度、システム管理者の会の推進委員 代表にNTTコムウェア株式会社 今里 亘氏が新しく就任されましたので、新体制の推進委員会のメンバーを紹介します。

新体制の推進委員会のメンバー



代表
今里 亘 推進委員
NTTコムウェア株式会社



副代表 小出 誠 推進委員
株式会社アークシステム



杉本 強 推進委員
株式会社クエスト



設楽 英生 推進委員
山崎製パン株式会社



天野 孝 推進委員
株式会社ヴィンクス



安村 俊祐 推進委員
国分グループ本社株式会社



金子 紀子 推進委員
株式会社ユニリタ



笠原 祥子 推進委員
株式会社山櫻

認定講座の 2022年度日程

システム管理者認定講座は、システム管理者を目指す若手から中堅者を対象にした、スキルアッププログラムです。ヒューマンスキルとテクニカルスキルの両面から、システム管理者に必要な知識や心構え等の修得を目的としています。2022年度の認定講座 各コースの日程が決定し、システム管理者の会Webサイトにて公開いたしました。

詳細についてはWebサイトをご確認ください

<https://www.sysadmingroup.jp/seminar/popup/schedule/>

ユニリタグループのDX人材育成セミナー



新型コロナウイルスの影響により、企業のDXへの取り組みが加速しています。リモートワークをはじめとする「働き方改革」の推進や、人々の生活様式の変化によりマーケットや購買行動もめまぐるしく変化します。企業もその変化に合わせてビジネスモデルや業務効率化といった対応を短期間で実施し、トライ＆エラーで評価改善する必要がありますが、その実現にはITを活用したDXが必要不可欠となっています。

そんな中、「DXを推進したいのだが、担当できる人材が社内にはいない」、「社内でDX人材を育成したいが、何をしたらよいかかわからない」などDXを担当できる人材の確保に苦労されているといった声をよく聞きます。

DXと一口にいても、その範囲は「業務プロセスの改善」、「IoT、ビッグデータを活用したAIやデータサイエンス」、「ビジネスモデルや事業ドメインの変更を伴う新規ビジネスの展開」など多岐にわたります。

現在求められているDX人材とは、自社の課題と目的を明確にし、社内外のリソースを調整したうえで、目的達成のための業務を強力に推進できる人材だといえます。

ユニリタグループでは、お客様のDXやIT戦略の推進のために、それぞれの目的とスキルレベルに合わせて、必要な知識とスキルを習得できる教育プログラムをご用意しています。ご興味のあるプログラムがございましたら、ぜひご参加ください。

「ガバナンス」と「マネジメント」を分離・循環させて成功に導く！ データガバナンス／データマネジメント組織づくりセミナー

概要	データ駆動型経営の組織モデル論に基づいて、経営企画室主導の組織づくり、マーケティング部門主導の組織づくり、情報システム部門主導の組織づくり、その組織モデルパターンをご紹介します。参加者の皆さまには、組織設計を考える上での道標を持ち帰っていただくことをゴールに設定し、お届けいたします。
対象者	データガバナンス、データマネジメント組織づくりの考え方を知りたいリーダーや担当者、データマネジメント推進を全社に広げる立場にあるリーダー
参加費	無償
日時	日程調整中(お問い合わせください) 【オンライン開催】
リンク	https://cl.unirita.co.jp/mg62-sm01-p

データ活用の初心者向け データ活用者のためのデータモデリングセミナー

概要	皆さまが普段活用しているデータはExcel形式のフラットな情報になっていますが、データには構造があります。その構造を分析すると、データ間のつながりが見えてきて、新しい観点が生まれてきます。本講演では、データモデリングの基礎的な知識/技術についてお話します。データ活用初心者の方のもともより、これからデータモデリングを勉強しようと思っているSEの方にも最適な内容となっております。
対象者	新入社員の方、データ活用が必要な部署に異動された方、データ活用を一般ユーザーにも浸透させたいが、なかなかうまくいかない方
参加費	無償
日時	日程調整中(お問い合わせください) 【オンライン開催】
リンク	https://cl.unirita.co.jp/mg62-sm02-p

DX時代の重点課題!! MDM(マスタデータ管理)を早急に実現せよ マスタ統合/コード統一/MDMセミナー

概要	本セミナーは以下の2部構成でお届けします。 第1部では、なぜマスタデータが重要なのか、MDM導入プロジェクトでは、具体的に何が問題となり、どう検討したら良いかをご説明します。 第2部では、トライ＆エラーでの設計やMDM導入プロジェクトのベストプラクティスなど、革新的なマスタデータ管理の進め方についてStibo Systems MDMプラットフォームのデモを交えてご紹介します。
対象者	データ活用の実現のために商品コードや取引先コードなどのマスタ統合を検討されている方PIMやMDMソリューションに関心がある方
参加費	無償
日時	日程調整中(お問い合わせください) 【オンライン開催】
リンク	https://cl.unirita.co.jp/mg62-sm03-p

2日間で学ぶITIL®4ファンデーション講座 (試験付き)

概要	ITIL®4はデジタル時代のサービスマネジメントの最新フレームワークです。従来のプラクティス群が、デジタル・トランスフォーメーション(DX)や顧客体験(CX)の文脈で再構築されています。顧客のニーズに対して、アジリティ(俊敏性)と信頼性の両方にバランス良く対応するため、サイロ化によるボトルネックを取り除くことに焦点を当てています。最新のITIL®フレームワークの理論と、実際の活用事例を交えながら講義を行います。
対象者	サービスの企画、開発、運用に携わる方 ITIL®4ファンデーション資格取得を目指す方 実務経験問わず
参加費	118,000円(税抜)
日時	2022年3月16日(水)-17日(木) 【オンライン開催】
リンク	https://cl.unirita.co.jp/mg62-sm04-p

インバースケット手法を用いた タスクマネジメント能力向上セミナー

概要	限られた時間のなかで、いかに精度の高い仕事を遂行できるかを評価する「インバースケット・ゲーム」とディスカッションを通じて、仕事の優先順位の判断方法を習得します。本セミナーでは、問題発見力、問題分析力、意思決定力、優先順位設定能力、洞察力、生産性など、多くのスキル要素を学習できます。リモートワークや働き方改革の中で、限られた時間で判断力や意思決定の精度を向上させませんか？
対象者	IT部門のリーダー、または次期リーダーの方
参加費	55,000円(税抜)
日時	2022年6月8日(水) 【オンライン開催】
リンク	https://cl.unirita.co.jp/mg62-sm05-p

サービス化時代の運用設計セミナー

概要	ITシステムをサービス視点で提供するために、運用設計に必要なドキュメント体系、設計項目、設計ポイントを学びます。サービス化に必要なサービス設計、評価項目を講義形式にて学習し、ケースによるワークショップ方式の実習でサービスの設計方法の習得を目指します。
対象者	システム運用やITサービスマネジメントに関わる担当者、管理者の方 システム構築や外部サービスの運用設計の役割を担う方
参加費	90,000円(税抜)
日時	2022年3月3日(木)-4日(金) 【オンライン開催】
リンク	https://cl.unirita.co.jp/mg62-sm06-p



中堅社員のコミュニケーション力 向上セミナー

概要	講義・実習・討議を通じてアドバイスや気づきを受けながら学ぶ体験学習方式です。システム運用業務で発生するさまざまな問題を想定したシミュレーション実習を行います。職場における問題や課題を、自らの日々の行動や内的な動機と関連づけて理解し、自部門や会社で発生している問題・課題を解決しようとする意識と姿勢を向上します。また、コンピテンシー診断による自身の行動特性・傾向を理解し、今後の目標と活動計画を立案します。
対象者	システム運用に携わる、運用担当者、運用管理者
参加費	有償(オンサイト開催のため別途お問い合わせください)
日時	オンサイト開催のため別途お問い合わせください
リンク	https://cl.unirita.co.jp/mg62-sm13-p (お問い合わせフォームが開きます)

システム運用の入門セミナー

概要	システム運用を体系的に学び、運用業務と必要な技術を理解し、ビジネスに貢献するITサービスの役割と基礎知識を学びます。これからのITサービス提供者に求められる役割を理解し、システム運用の基礎知識を身につけます。新入社員から運用部門への異動者まで、幅広い方におすすめいたします。講義・実習・討議を通じてアドバイスや気づきを醸成する体験学習方式です。
対象者	新入社員、システム運用担当者、他部署からの異動者 システム運用を体系的に学びたい方
参加費	80,000円(税抜)
日時	2022年3月1日(火)-2日(水) 【オンライン開催】
リンク	https://cl.unirita.co.jp/mg62-sm08-p

運用業務における業務改革(BPR)セミナー

概要	システムの運用開始後も、ビジネス要件とそれに紐づくITシステム要件は変化し続けること、運用しながらITシステムやITサービスを改善し続け、ニーズの変化に追随することの重要性を学習します。経営課題をインプットにあるべき運用業務プロセスをゼロベースで考え、業務改革を企画提案するまでの流れを学習します。事例を用いて座学とグループワークを組み合わせた実習を行うことで、経験に裏打ちされた学びや気づきを促します。
対象者	システム運用(保守)/ITサービスマネジメント領域の企画・管理改善を担う方、または今後担われる方
参加費	90,000円(税抜)
日時	2022年8月24日(水)-25日(木) 【オンライン開催】
リンク	https://cl.unirita.co.jp/mg62-sm09-p

改善提案セミナー

概要	IT部門はビジネスの拡大に貢献する部門へと変革することが求められています。ビジネスに貢献するITサービスとは何かを考え、創りだし、提案することが期待されています。本セミナーではITサービス提供者がCIOに対してサービス改善提案をする場面を想定した、ロールプレイ形式での研修を行います。ロールプレイではユーザーへのヒアリングから提案作成~CIO(講師)へのプレゼンまで体験していただき、提案手法の習得を目指します。
対象者	システム運用(保守)/ITサービスマネジメント領域の企画・管理・改善を担う方、または今後担われる方
参加費	有償(オンサイト開催のため別途お問い合わせください)
日時	オンサイト開催のため別途お問い合わせください
リンク	https://cl.unirita.co.jp/mg62-sm10-p (お問い合わせフォームが開きます)

要件ヒアリングセミナー

概要	システムの運用開始後も、ビジネス要件とそれに紐づくITシステム要件は変化し続けること、運用しながらITシステムやITサービスを改善し続け、ニーズの変化に追随することの重要性を学習します。変化し続ける顧客・経営層・事業部門のニーズに追随するための、要件定義・ヒアリングの手法を学習します。事例を踏まえたケースを用いて、座学とロールプレイを組み合わせた実習を行うことで、経験に裏打ちされた学びや気づきを促します。
対象者	システム運用(保守)/ITサービスマネジメント領域の企画・管理改善を担う方、または今後担われる方
参加費	90,000円(税抜)
日時	2022年3月24日(木)-25日(金) 【オンライン開催】
リンク	https://cl.unirita.co.jp/mg62-sm11-p

チームリーダーの問題解決力、リーダーシップ向上セミナー

概要	講義・実習・討議を通じてアドバイスや気づきを受けながら学ぶ体験学習方式です。システム運用業務で発生するさまざまな問題を想定したシミュレーション実習や、顧客/上司/部下から期待されている役割についての討議を行います。また、自身の行動特性を認知するためのLIFO®診断も行います。(F/Bサービス付き:受講後、個別に講師がご報告に伺います)
対象者	システム運用に携わる、運用管理者、運用設計者 今後リーダーや管理者の役割を担う方
参加費	80,000円(税抜)
日時	2022年7月6日(水)-7日(木) 【オンライン開催】
リンク	https://cl.unirita.co.jp/mg62-sm12-p

業務プロセス可視化セミナー

概要	事業部門/管理部門の業務プロセスを概要から詳細に向けて階層的にモデリングする方法を学びます。Ranabase(ラーナベース)というユニリタが提供するWebサービスを利用いただくことを前提といたします。DX推進から日々の業務改善まで幅広い用途に適用できます。
対象者	業務フローを描く必要のある方
参加費	無料
日時	次回日程調整中 【オンライン開催】
リンク	https://cl.unirita.co.jp/mg62-sm14-p



ユニリタ 今昔物語

ユニリタの歴史 Part4

データウェアハウスの本格的台頭



過去のコラム
はこちら

Part1 黎明期編

Part2 A-AUTO編

Part3 PCの台頭とデータウェアハウスへの取り組み編

<https://ebook.unirita.co.jp/unirita/MG59/?page=8>

<https://ebook.unirita.co.jp/unirita/MG60/?page=8>

<https://ebook.unirita.co.jp/unirita/MG61/?page=8>

1990年代の初頭に米国のコンピューター科学者であったビル・インモンによって提唱されたデータウェアハウスは、企業の事業活動の中核をなす「基幹系システム」に対し、さまざまなデータを収集し分析することで、企業内のあらゆる局面における意思決定を支援する「情報系システム」と呼ばれる新たなビジネス基盤を提供することになりました。

1992年頃にバブルが崩壊すると、企業の関心事はコスト削減とビジネス分析になります。

1995年に当時ビーコンIT(ユニリタの前身)の社長であった石井が、日本で初めてのデータウェアハウス関連の書籍『データ・ウェアハウス』(写真)を出版しました。



本書では、通常データベースに格納されるデータはトランザクション型データ(売上/仕入伝票など)、集計加工データ(月別売上金額、商品別売上など)、マスター型(人事/顧客/部品マスターなど)の3種類に分類されますが、そのデータ特性にあったデータウェアハウス管理システムを利用すべきだと述べています。ビーコンITでは、集計データは多次元データベース「Essbase*1」、トランザクションデータは明細型データベース「Red Brick*2」、そしてマスターデータにはユニークな時制型データベースの「TimeCube」をラインアップにそろえました。

データウェアハウスで最初に普及したのは、企業内でデータ分析を必要とする財務部や経営企画部、営業現場が直接利用しやすい集計型データを扱う多次元データベースでした。代表的な製品が「Essbase」で、エンドユーザーがExcelのシート上にノンプログラミングでデータを取り込み、スライス&ダイスといった切り口を自由に切り替えることができる画期的なツールでした。ビーコンITでは当時のメーカーであるComshare社より「Essbase」の供給を受け「DWH Pack」として1994年から販売開始し、同年8月に第1号ユーザーとなった日立工機株式会社様(現 工機ホールディングス株式会社様)を皮切りに数年間で400社以上の企業に導入されました。

その後、集計データの中からさらに明細データを見たいという要求が高まってくると、大容量の生データの分析が必要となり、大量のデータを高速に処理することができるデータウェアハウス専用のDBMSが登場します。ビーコンITでは販売代理店として「Red Brick」を日本に展開し、データベースのアクセスツールとして「BrioQuery*3」や「BusinessObjects*4」と組み合わせて導入企業を増やしていきました。

「TimeCube」は時制マスター型という時間軸を持つ自社開発製品で「ベン図」を用いた可視化ツールを組み込み、当時盛んに導入が行われていたCRMやSFAデータの分析を行うマーケティングや営業現場に向けて販売を行いました。時間軸を持つことで、例えば、「5年以上前に機械を購入したが2年以内に機械を更新していない企業で、営業マンがここ半年訪問していない企業を抽出する」などの当時のコンピューターパワーでは難しかった検索や分析を現場部門が直接ベン図を利用しながらターゲティングを行うことができる革新的な製品でした。

データウェアハウスで多くの汎用DBMSが登場して来ると、次第に可視化するエンドユーザーツールが差別化の柱となりました。その代表的なツ

ルの中で、ビーコンITでは「BrioQuery」や後にアシスト社から販売を引き継いだ「BusinessObjects」などを提案しました。

またデータウェアハウスの利用が全社から各部門での展開になり、データマートという言葉と共に「Dr.Sum」や「DIAPRISM」などの日本製品が活躍するのは2000年代になってからです。

データウェアハウスの台頭に伴い出現したツールがETL(Extract, Transform, Load)という分野です。メインフレームやさまざまなサーバーに散在しているデータを抽出し、変換しデータウェアハウスに格納するためのツールです。データウェアハウスを利用し続けるためには、必要なデータを選択・抽出し、クレンジング(データをきれいにする)して正しいデータを作るためのメンテナンス作業が必要となり、データウェアハウス構築の際には大きな工数がかかっていました。

この問題を解決するためにETLツール「Waha! Transformer」を開発し、1999年4月から販売開始しました。

さらに、データウェアハウス構築後の運用では、情報システム部に掛かる運用の負荷を軽減するにはデータ更新の自動化が重要でした。

データウェアハウス運用の自動化にはデータ転送、データ加工、データ抽出タイミングの自動化が必須要件であり、転送(Transfer)、加工・変換(Transformation)、自動化(Automation)をそれぞれHULFT、Waha! Transformer、A-AUTOが担うソリューションとしてWaha! (Data Warehouse Automation)が考案されました。

「Waha! Transformer」はデータウェアハウス構築の際の必需品になり、「The Account Pro(管理会計用)」、「The Retailer Pro(小売販売用)」、「The Customer Pro(顧客分析用)」、「The仮説検証Pro(営業・マーケティング用)」といった業務テンプレートを付加したソリューションシリーズにも組み込まれました。

その後、データウェアハウス利用以外でも「Waha! Transformer」の用途が広がりました。例えば1999年から始まった平成の市町村大合併では町名などの統合に「Waha! Transformer」が採用され、名寄せやデータの統合に活用されました。また、今で言うデータレプレーションの用途としてパーソナル版が「ズバリ!自動化」という名称でソースネクスト社から1980円で店頭販売され、1万本以上の販売実績を残すなど、個人市場にもデータ加工というニーズがあることを証明しました。(現在は販売しておりません)

「Waha! Transformer」は現在でもお客様にご愛顧いただいております。2000本に迫る販売実績があります。1999年の販売開始から数えて22年目の現在、バージョン6を開発中です。

次回は、「システム管理者の会」の発足についてお話しする予定です。

Essbase*1: Arbor Software社が開発した分析アプリケーションを構築するためのプラットフォームを提供する多次元データベース管理システム。Arbor Software社は1998年にHyperion Softwareと統合され、その後Hyperion Softwareは2007年Oracleに買収されました。

Red Brick*2: Red Brick Software社が開発した製品。Red Brick社はその後Informixに買収され、さらにInformixはIBMに買収されました。

BrioQuery*3: Brio Technology社に開発されたが、2003年Hyperion Softwareに買収され、Hyperion社は2007年にOracleに買収されました。

BusinessObjects*4: フランスのBusinessObjects社が開発した製品でこの製品が出回ってからBI(Business Intelligence)という言葉が出回るようになったと記憶しています。その後本社を米国に移したが2008年にSAPに買収されました。

担当者紹介



セールスユニット
アドバイザー
辻 康孝



株式会社 ユニリタ

www.unirita.co.jp

本社 〒108-6029 東京都港区港南2-15-1 品川インターシティA棟
名古屋営業所 〒451-0045 名古屋市西区名駅3-9-37 合人社名駅3ビル

ユニリタグループ

株式会社アスペックス / 株式会社ビーティス / 株式会社データ総研
備実必(上海)軟件科技有限公司 / 株式会社ビーエスピーソリューションズ
株式会社ユニ・トラント / 株式会社ユニリタプラス / 株式会社社無限
株式会社ユニリタエスアール

アンケートご協力をお願い

ユニリタでは、今後もユニリタマガジンの見直しや改善を実施し、皆様のお役に立てる情報をお届けするために、アンケートを実施します。アンケートにご協力いただいた方の中から抽選で5名様にスターバックスカード(1000円分)を差し上げます。ぜひご協力ください。

アンケートはこちら

<https://cl.unirita.co.jp/mg62-qu-p>

※ 本誌掲載の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

※ 掲載されている内容については、改善などのため予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。